

# AOI通信

静岡音楽館倶楽部情報誌  
JUNE 2014 No.74

夏号

インタビュー

## 彌勒忠史

## ボリス・ベレゾフスキー インタビュー

AOIゆかりのアーティスト 甲斐 弦也 (オルガン)

室内楽の  
歴史的名演を語る ①



# インタビュー 彌勒忠史

AOIの、今年の「子どものためのコンサート」には、カウンターテナーの彌勒忠史さんが出演。カウンターテナーとは、ファルセット(裏声)で高い音域を歌う男性歌手のこと。16~17世紀に活躍しました。子どもにカウンターテナー? ちょっと難しいのでは? いえいえ、そんなことはありません。いま、日本のカウンターテナーで大活躍の彌勒さんに、カウンターテナーや、その時代の音楽の魅力などを語っていただきました。

— 単純に言って、男性が女性のような高い声で歌う、というだけでも子どもたちや、大人にとっても新鮮な驚きがあるのでは、と思っています。

きっとそうでしょうね。じつはいままで古楽<sup>\*1</sup>で子どものためのコンサートをやったことがなくて、ぜひやってみようと思っていました。しばらく「こどもちゃれんじ」<sup>\*2</sup>の「おにいさん」をやっていたことがあって、子どもにアプローチするのは得意なほうなんです。どんなコンサートにしようか、いっしょに出演するリコーダーの濱田芳通さんといろいろはなしあっています。ルネサンスやバロックの音楽って、すごく親しみやすいところがあるので、子どもたちといっしょに歌ったりもしてみたいですね。あと、子どもたちにとってはカウンターテナーだけでなく、リコーダーにも驚くんじゃないでしょうか。自分たちが慣れ親しんでいる楽器が、濱田さんの手にかかると、そこからのすごい音楽が生まれてくるわけですから。

— どういうきっかけでカウンターテナーの道に進まれたのでしょうか。

子どもの頃から歌うのは好きで、小学生の頃はずっとボーイ・ソプラノでした。「宇宙戦艦ヤマト」のヴォカリーズ<sup>\*3</sup>をよく歌っていました。母はクラシックのレコードを聴いていましたけれど、叔父がジャズを聴かせてくれたり、僕はテクノのバンドもやっていたりファンクも大好きで。ファンクの歌はたいがいファルセットなんです。アース・ウィンド・アンド・ファイアー<sup>\*4</sup>とかビージーズ<sup>\*5</sup>みたいに。子どもの頃から、「歌う」ということは、すなわちファルセットだと思い込んでいました。男声のヴォーカルのファルセットは魅力的です。平井堅にしてもEXILEのATSUSHIにしてもCHEMISTRYにしてもみんなファルセットがすばらしいですよ。

千葉大学の教育学部から大学院へ行って、それから東京藝術大学の声楽科でテノールを専攻しましたが、ずっと違和感とか疑問がありました。そのあと、オルガンの鈴木雅明さん<sup>\*6</sup>が主宰するバッハ・コレギウム・ジャパンに入ったとき、テノールの私となりでカウンターテナーの米良美一さん<sup>\*7</sup>が歌っているのを聴いて、クラシックの世界でもファンクのような発声、つまりファルセットで歌う選択肢もあるんだ、ということでその後カウンターテナーの道に進んだんです。



## 子どものためのコンサート 彌勒忠史 (カウンターテナー) with アントネッロ

8/23 [土] 15:00 開演 (14:30 開場)  
全指定 ¥2,500 (会員 ¥2,250、22歳以下 ¥1,000) 親子券 ¥3,000 [Pコード=216-469]

出演	曲目
彌勒忠史 (カウンターテナー)	J.ファン・エイク: イギリスのナイチンゲール
アントネッロ	道化師
濱田芳通 (リコーダー)	T.メルラ: カンツォーネ (ラ・ガッリナー) (めんどり)
石川かおり (ヴォーラタガンバ)	G. フレスコバルディ: アリア (そよ風が吹けば)
西山まりえ (チェンバロ)	T. ヒューム: 兵士の決意 (ほか)

— テノールからカウンターテナーにぱっと転向するのは難しいと思いますが、もともとファルセットで歌う素地のようなものがあったんですね。どういうふうに高い声を出すことができるんですか?

実際に自分の喉のなかをみたことがないから判りませんが(笑) 声楽の発声の本や医学書を見ると、ふつうにはなしたりしているときは声帯をぜんぶ使っているわけですが、ファルセットのときは声帯を2/3から1/2の長さにして歌っているんですね。コントラバスが弦を短く使って高い音を出すというイメージです。音程をコントロールするのが難しいです。

— ふつうの男性にはずいぶん難しそうですね。

う〜ん、どうなのでしょう。僕にとってはしぜんなことだったので。ファルセットの感覚に慣れていたのと、そのための筋肉が準備されていた、ということなんでしょうね。

— ファルセットを維持するための、日々のトレーニングとか、ふだん気をつけていることってありますか?

特別になにか、ということはないですけど、声を使う人は歌手に限らずアナウンサーもそうだと思いますが、ばか騒ぎするとか、酒の呑み過ぎでがらがら声になるとか、風邪をひくとか、声帯を疲労させることは避けなければならないですね。それと筋トレをします。横隔膜を直接鍛えることはできないので、腹直筋などの呼吸に関わる筋肉をトレーニングします。基礎的な体力も維持するようにしています。年齢を重ねてきて、表現に対する欲求と、できることが近づいている実感があって、そのために身体を鍛えておく。10の力を必要とするときに、10の力しかもっていないのと100の力もっているのでは余裕が違います。カウンターテナーがオペラに出演するというのがいままでも日本では少なかったんで、僕はどんどんやっていきたいと思っていますが、歌手が1回のオペラで消費するカロリーはサッカー選手の1試合と同じといわれていて、公演後には体重が1~2kgは減ってしまうんです。

— やはりカウンターテナーにとっては古楽、ルネサンスやバロックの歌がメインのレパートリーになると思いますが、いちばんの関心は?

やはり1600年代初期のイタリアの世俗歌曲ですね。とくに今回のコンサートのように、濱田さんたちのアンサンブル、アントネッロといっしょに演奏するのがもっとも楽しいです。クラウディオ・モンテヴェルディやジローラモ・フレスコバルディ、それからタルクイーニオ・メルラとか、彼らの作品は1曲1曲がそれぞれの作曲家の、ほんとうに強烈な個性を持っているんだけど、どれも味わいが違う。そして色っぽい。いい感じに切ないですね、どれも。たいがい男がふられています、恋に悩み苦しむ人たちの言葉というのは、ぐっとくる。「きゅん!」とする音楽が好きなんです。歌手というのは歌詞を伝える演奏家なわけですから、そういうことをたいせつにしたいです。

— モンテヴェルディは《マドリガーレ集》第5巻 (pub.1605) に「言葉は音楽の主人である」と記していますよね。

「レチタール・カンタンド」、つまり「語るように歌う、歌うように語る」、いかにドラマを聴く人に伝えるか、ということですね。歌手が、言葉の内容、感情を伝えようとする強い姿勢があれば、字幕とかがなくても、きっと感じるができるものがある。音楽的にはパッサ・オスティナート、繰り返されるベース・パターンというのも特徴的で、それってまさにファンクです。マイケル・ジャクソンの《スリラー》(1982)のベース・ラインの繰り返しはまさにパッサ・オスティナートだし、パッサ・オス

ティナートをファンクだと思えば、かなりおもしろいでしょ?

あと、その頃の、とくにイタリアの音楽では、世俗曲と宗教曲がいっしょくたなものもおもしろいですね。モンテヴェルディが《アリアナの嘆き》という世俗曲をもとに《聖母マリアの嘆き》という宗教曲をつくったりとか、世俗舞曲のチャッコーナ(シャコンヌ)のスタイルで《主を讃えよ》という長大でかっこいい宗教曲をつくったりとか。すごいんですよ、ゴスペルみたいなにのりのりで。モンテヴェルディは大好きです。

それと、最近は日本語のうたを歌うことにも力を入れてます。いわゆる日本歌曲ではなく、たとえば《気球に乗ってどこまでも》(平吉毅州、1974)とか《怪獣のパラード》(東海林修、1972)とか、《フランダースの犬》(渡辺岳夫、1975)みたいなアニメの主題歌とか、ポップスも含めて。つまり「カバー」ですよ。日本人であるからには日本語で日本の聴衆に訴えていきたい。言葉を含めて歌というものがある、ということも、歌うことで感じていただきたいですね。

— 彌勒さんは音楽に対してアカデミック、というより、ファンクも好きで、かなり自由で経験的でラディカルですよ。想像を超えてはばひる過ぎました(笑) はばひろいと言えば彌勒さんが書かれた本『イタリア貴族養成講座』(集英社新書、2008)は声楽家による中世イタリア社会の概説ということで、そこでどれほど音楽が重要だったのか、と思って読んでると、いったいいつになったら音楽のことに触れるのか、ずーっと食べることはばかりで(笑) しばらくイタリアで歌や演出を学ばれましたが、食べることが好きでイタリアに行ったら危険ですよ(笑)

食べることは大好きですね(笑) なにしる留学先が食の都ボローニャでしたから。危険な選択でした(笑) ミートソースの発祥の地です。市内の美味しいトラットリア、レストランはぜんぶ行きました。そのせいで体脂肪率が一気に5%増えましたが。いちばん好きな食べものは白いご飯ですけどね、だけど昨日の夜に静岡で食べた桜えびのかき揚げ、美味しかった〜! 楽屋にもみかんの差し入れがあって。

— 静岡も危ないですね(笑) AOIでのコンサート、前日から静岡に来ていただいてリハーサルの予定ですから。

おおお〜、食べ過ぎないようにしないと〜!

……ということで、とっても嬉しい彌勒さんです。コンサートでぜひその魅力をたっぷり!

2014年1月26日(日) 小林旬(元・静岡音楽館AOI学芸員)

\*1 中世、ルネサンス、バロックの音楽。

\*2 ベネッセコーポレーションの幼児のための通信教育講座。「しまろう」のキャラクターで装束、この20年ほど、多くの子どもたちが「こどもちゃれんじ」で育っている。

\*3 アニメ「宇宙戦艦ヤマト」(1974)の挿入歌《無限に広がる大宇宙》。作曲は宮川泰(1931~2006)。「スキヤット」とよばれている音楽的には「ヴォカリーズ」といったほうが適当。

\*4 アメリカのファンク・バンド、1969年結成。《宇宙のファンシー》(1977)、《September》(1978)、《Boogie Wonderland》(1978)、《After the love has gone》(1979)、《Let's Groove》(1981)などがヒット。

\*5 イギリスのヴォーカル・グループ、1965年結成。《小さな恋のメロディ》(1971)、《愛はきらめきのなかに》(1977)、《Stayin' Alive》(1978)、《恋のナイト・フィーバー》(1978)などがヒット。

\*6 AOIでは今年12月13日(土)に鈴木雅明 オルガン・リサイタルを開催。バッハ、コレギウム・ジャパンの歌手4人がゲストで賛美歌を歌い、それらをもとにしたJ.S.バッハのオルガン曲をカップリングしたクリスマス季にふさわしいプログラムを聴かせる。

\*7 日本のカウンターテナー歌手、アニメ映画「もののけ姫」(1997)の主題歌で注目を集める。1994年から98年までバッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)に在籍。AOIには、96年のBCJのコンサートに参加し、98年にはリサイタルを行なった。

# ボリス・ベレゾフスキー インタビュー

B.ベレゾフスキーの奏でるピアノは、柔らかな音色を縦糸に、迫力の技巧を横糸にして、ロシア・ピアノの魅力をたっぷりと伝えてくれる。10月13日のリサイタルは、ロシア人作曲家による作品に特化したプログラムを披露する。チャイコフスキー国際コンクール優勝から四半世紀が経った今、彼がどんな思いでその作品群と向き合うのか、お話を伺った。

© David Crookes-Warner Classics

—コンサートの前半は、S.ラフマニノフのソナタ第1番です。エネルギッシュで、ロマンティックなところもある規模の大きな作品ですが、日本ではあまり演奏される機会のない曲ですね。

日本ばかりでなく世界的にも、そしてロシアでも状況は同じです。彼のピアノ・ソナタでも2番は比較的良好演奏されますが、1番が取り上げられることはほとんどありません。なぜかといえば、一つにはピアニストに掛かる負荷がとても重いこと。長大だし、とにかく高い演奏技術が必要なのです。そしてもう一つはこの作品の内容でしょう。悲劇的なのです。2番の最後は華やかなフィナーレで明るく終わりますが、1番は悲劇的でゾッとするような終わり方をします。もともとこの作品は、ラフマニノフがゲーテの戯曲「ファウスト」に触発されて作曲したもので、悲劇的要素が一番のエッセンスなのです。結末が悲劇的な映画はあまり人気が出ませんが、音楽も同じなのかもしれませんね。

—今回ベレゾフスキーさんがこの曲を取り上げようと思った理由は？

僕からすると、どこにも欠点の見当たらない素晴らしい作品だからです。どこが素晴らしいかと訊かれれば、すべてと答えるしかありません。知られざる名曲をコンサートで取り上げることは、ここ最近僕がもっとも力を入れている活動です。知られずとも美しい作品は豊富にあり、それを眠らせたままにしておくのはもったいない。僕は作曲家たちへの称賛と敬愛を込めて、新しいアプローチをすることにしたのです。

—後半は、こちらも珍しいN.メトネルのソナタ(Sonata-Idylle)で開始です。とても穏やかな曲想の作品ですね。タイトルの「Idylle」という言葉は日本で「牧歌」と訳されています。

Idylleとは、自然を眺めることで得られる心の平安です。東洋哲学的な瞑想状態に近いと思います。メトネルにはドラマティックな作品が多く、このような穏やかな心理状態を与えてくれる作品は少ないですね。今回は前半に激情的なラフマニノフを置いたので、後半は安らかな曲で始めたいと思いました。

—そしてロシア音楽の発展に貢献したM.A.バラキレフの作品です。スケルツォ第2番とマズルカの第2、4、5番、そして有名な《イスラメイ》(東洋風幻想曲)。彼のスケルツォやマズルカをお聴きになるのは初めてという方は多いと思います。スケルツォやマズルカと言えば……

F.ショパン、ですね(笑)。マズルカはもともとショパンの祖国ポーランドの舞曲です。ショパンとバラキレフ、どちらのマズルカも華やかで、テクニクもよく似ています。バラキレフのマズル



カに特徴的なのは、東洋的なファンタジーに満ちているところ。ロシアの歴史は東洋との結びつきが強いので、その影響を受けているのです。

—バラキレフのスケルツォの特徴は？

とても華やかで美しいメロディーで溢れています。とくに第二テーマは東洋的でロマンティック。僕がこの曲を初めて聴いたのは、スロヴァキアを車で旅行中でした。最近、自分の知らない音楽と出会うために、聞いたことのない曲や、なんだかヘンなピアノ協奏曲(笑)など、珍しい作品を取めたCDばかりを車に積み込んで出かけるんです。その中にあったのがこのスケルツォで、音楽のクオリティーの高さに感激し、すぐに自分のレパートリーに加えよう決めました。

—そして最後に有名な《イスラメイ》ですね。

長年僕はこの曲を得意とするピアニストと言われてきましたが、より高い次元の《イスラメイ》へと磨きをかけているところです。近年、民族音楽への関心も高まっているので、この作品の民謡的要素にも着目しています。これまでも最良の演奏をしてきた自負はありますが、一層素晴らしい「新・イスラメイ」をお届けできると思います。

—日頃は3人のお子さんの父でもあるベレゾフスキーさん、日本文化をとっても愛して下さっていますね。

日本の伝統文化も温かく迎えてくれる聴衆の皆さんも大好きです。子供たちも日本の温泉が大好き(笑)。僕は1日2時間は公園をウォーキングするのが日課なので、自然に恵まれた静岡県を訪れることを楽しみにしています！

聞き手:飯田有抄(音楽ライター)

## ボリス・ベレゾフスキー ピアノ・リサイタル

10/13 [月・祝] 15:00 開演 (14:30 開場)

全指定¥5,000 (会員¥4,500、22歳以下¥1,000)  
[Pコード=216-480]

曲目

S.ラフマニノフ：ピアノ・ソナタ 第1番 二短調 op.28  
M.A.バラキレフ：イスラメイ (東洋風幻想曲)  
N.メトネル：ピアノ・ソナタ 長調 op.56 (牧歌)  
M.A.バラキレフ：スケルツォ 第2番 変ロ短調  
マズルカ 第2番 変ハ短調  
第4番 変ト長調  
第5番 二長調

[後援] (一社) 全日本ピアノ指導者協会、常葉大学短期大学部

# AOI 100のアーティスト

## 甲斐弦也(オルガン)



9月6日(土)のオルガン・コンサートにご出演いただく甲斐弦也さんにお話をうかがいました。

### 1 オルガンを始めたきっかけは?

最初に師事したピアノの先生から薦められたのがきっかけです。最終的にオルガンを習いたいと決めたのは高校3年の時ですが、先生から、「あなたは手が大きいから、オルガン奏者になるのはどう」と仰ってくださり、音大受験前の秋に先生と一緒に静岡英和女学院で開催された松居直美さんのオルガン・リサイタルを聴きに行きました。オルガンを始めた具体的な理由になるかどうか分かりませんが、その時聴いたオルガンの荘厳な響きに深い感銘を受けたのは、未だによく覚えています。そしてついにはオルガンをやろうと決めました。受験直前に、静岡音楽館AOI開館前のオルガン建造風景を見学しました。そのとき「これからこうした豪華な楽器で演奏する日が来るんだ」と気持ちが高ぶりました。受験は国立音楽大学のピアノ科とオルガン科を併願で受け、ピアノで合格しました。そして同大学入学の年に定年退職された故・吉田寅名教授のもとで、オルガンの手ほどきを受け始めました。

### 2 音楽をされていないときは何をしていますか。

そう度々ではないのですが、リフレッシュにウォーキングをします。気分転換になりますし、足を鍛えることはオルガニストにとって欠かせませんからね。私は2003年から、ドイツ最古の大学のある学生街として有名なハイデルベルクに住んでいますが、ゲーテなどが思索にふけった「哲学者の道」からのハイデルベルク旧市街の眺望は格別に素晴らしく、何度行っても飽きません。また旧市街の目抜き通りでは、ショッピングはしなくても店を眺めるだけで十分楽しめます。11月末から12月にかけてはクリスマス・マーケットも見逃せません。

### 3 好きな作曲家を教えてください。

オルガンといえば、まずJ.S.バッハでしょう。作品の中に駆使されている対位法や和声法の緻密さだけでなく、彼のキリスト教信仰が深く表現されているので、私もバッハの作品はとて好きです(演奏解釈は難しく、大変苦労しますが)。一方でC.フランクやC.M.ヴイードル、L.ヴィエルヌといったフランスの交響的作品も重厚感があって好きですし、M.レーガーなど、ドイツ・後期ロマン派から近代にかけてのデュナーミクの激しい作品も違った意味で楽しめます。F.メンデルスゾーンなど前期ロマン派の作品も上品で好きですね。

### 4 AOIのオルガンを弾いたときの印象は?

AOIのオルガンはコンサートだけでなく、時々演奏会の目的以外での練習にも使わせていただきましたが、響きが素晴らしいですね。AOIは室内楽に最も適したシューボックス型のコンサートホールを採用していますが、オルガンのホールとの適合性もベストです。バッハはむしろ、古典からロマン派、現代まで、どの作品を演奏するにも合っています。このオルガンで2000年に受けた第5回「静岡の名手たち」オーディションに合格したときの嬉しさは、計り知れないものがありました。AOIでは同オーディションによる合格者によるコンサートへの出演の他、1998年には女声ヴォーカル・アンサンブル「コール・レーベン」とも共演いたしました。練習もとても楽しく、「終了時刻が早く来ないで」と願っていたものでした(笑)。

### 5 9月のコンサートのプログラムについてお聞かせください。

1時間というプログラムの中で、できるだけ皆さまにお楽しみいただけるよう、バッハから現代まで、ドイツの作品からフランス、チェコの作品まで選び、テンポや曲想についてもバラエティ豊かになるよう配慮しました。「聖アン」と名づけられた、バッハの堂々たる「《前奏曲とフーガ》変ホ長調」でコンサートの幕開けをし、レーガーの晩年の作品、「《幻想曲とフーガ》二短調」で閉じます。4曲目に演奏するエベンというチェコの作曲家は、あまり聞かれたことないかと思いますが、2007年に他界するまで、オルガン曲に限らず様々な作品を生み出しました。「カナの婚礼」というタイトルからも分かるように、結婚式にふさわしい軽快な曲です。

### 6 今現在の活動や、今後目指していることがあればお教えてください。

ハイデルベルクとその周辺の教会や養護施設にあるチャペルなどで礼拝オルガニストを務める傍ら、演奏活動にも積極的に取り組んでいます。また学部はピアノ専攻だったため、それを活かしたコレパティートル(オペラ歌手などに音楽稽古をつけるピアニストのこと)の仕事もさせていただいています。東日本大震災後は微力ではありながら、遠い祖国のためにできることはないかという想いで、邦人演奏家を集めてチャリティー・コンサートを開催し、今後も続けるつもりです。さて将来の夢ですが、とにかく演奏する機会を増やしたい。そしてドイツをはじめ、ヨーロッパ各地には歴史的名器がたくさん存在するので、時間を見つけてもっと触れていけたらと願っています。日本でも最近は一時期国内によくコンサートをさせていたのですが、今後も里帰りの折に触れて続けていきたいですね。

## 甲斐弦也さんのおすすめCD



マックス・レーガー  
オルガン曲集(2)  
マルティン・ザンダー(オルガン)  
Motette CD 12001

※輸入盤のみ  
演奏:1993年11月 リガ大聖堂のヴァルカール・オルガンにて  
曲目:コラル幻想曲「目覚めよ、と呼ぶ声あり」(Op.52-2)  
12の小曲 (Op.59)より  
パストラーレ、インテルメッツォ、カノン、トッカータとフーガ  
創作主題による変奏曲とフーガ (Op.73)

## オルガン500コンサート

9/6 [土]  
14:00 開演 (13:30 開場) ※15:00 終演予定  
全自由 ¥500 好評発売中  
※静岡音楽館倶楽部会員割引はありません。  
※このコンサートは休館日があります。



曲目  
J.S.バッハ: 前奏曲とフーガ(聖アン)のフーガ 変ホ長調 BWV552  
18のライプツィヒ・コラル集より  
(いと高きところにいます神にのみ栄光あれ) BWV662  
C.フランク: コラル第3番 イ短調  
P.エベン: 聖書による4つのダンス より 第4曲「カナの婚礼」  
M.レーガー: 幻想曲とフーガ 二短調 op.135b

## 室内楽の 歴史的名演を語る①

## 百万ドル・トリオによる 豪華絢爛なベートーヴェンの《大公》 諸石幸生(音楽評論家)

静岡音楽館AOIは室内楽ホールです。そこで、みなさまに室内楽をより楽しんでいただくために、「室内楽の歴史的名演を語る」をお届けします。今回は、アルトゥール・ルービンシュタイン(ピアノ)、ヤッシャ・ハイフェッツ(ヴァイオリン)、エマヌエル・フォイアマン(チェロ)で組まれた百万ドル・トリオによるL.v.ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲第7番(大公) 変ロ長調 op.97についてです。

室内楽の演奏は一般的には、次の二つのタイプに分けられよう。室内楽を専門に演奏して名声を獲得してきた、あくまでもアンサンブル重視のタイプと、世界的有名演奏家が集い、華やいだ雰囲気の中で名作を演奏していくタイプの二種である。そうした意味あいでは、ここでご紹介する百万ドル・トリオは、予想どおり後者のタイプになる。何しろ、ピアノがルービンシュタイン、ヴァイオリンがハイフェッツ、そしてチェロがフォイアマン(残念なことに、1942年に39才で亡くなってしまう)という名うての実力者たちが集って演奏しているのである。いわば著名なソリストたちによるトリオであり、その豪華さから百万ドル・トリオという名称が定着したほどである。もっともこのあだ名という愛称は、1950年、即ち、チェロがピアティゴルスキーに変わって以降、「ライフ」誌が与えたものであり、本当は、このピアティゴルスキー時代からのトリオをさすというべきかもしれないが、現在では、フォイアマン時代も含めて語られるようになっている。

しかし、室内楽グループに対して百万ドルという金銭的、経済的な名称を与えてしまう辺りが、第二次大戦後、高度経済成長を続けて繁栄を謳歌していたアメリカらしいところである。もっともこの名称に対しては、ルービンシュタインが嫉悪感を表明していたと伝えられているが、

さて、このルービンシュタイン、ハイフェッツ、フォイアマンのトリオだが、1941年にシカゴで演奏したというのが、唯一のライブ演奏の記録とされている。しかし幸いにもこの1941年にベートーヴェンの《大公》トリオ(ピアノ三重奏曲第7番 変ロ長調 op.97)が録音されたのであり、この演奏によって私たちは「コルトー、ティボー、カザルス」によるまさに歴史的遺産と同格で語られるべき名演をもう一つ手に行うことができるようになったのである。

この時、ルービンシュタインは54才、ハイフェッツ40才、フォイアマン

38才という、いずれもが壮年期というべき時代に収録されており、演奏内容は力強い生命力と高貴なる精神性をベースに繰り広げられている。さらに、演奏全体にベートーヴェンの心意気までも聴かせるかのような迫真性すら併せ持ち、時に室内楽であることを忘れて聴き入らせるほどである。それは、作曲時、40代になったばかりのベートーヴェンの内なる想いをそのまま、私たち聴き手に送り届けようとする演奏であるといつてよいかもしれない。そして全体にアメリカ的というよりもヨーロッパの香りにあふれており、やはりこれら三名の名演奏家たちが、ポーランド(ルービンシュタイン)、リトアニア(ハイフェッツ)、ウクライナ(フォイアマン)からの出であることなども分かってくる。

こうして永遠の生命を与えられた《大公》だが、一つだけハイフェッツには不満なところがあったという。それは名前の順序で、ピアノ三重奏曲では、常にピアニストが最上段に来て、ヴァイオリン奏者の上にあるという点であった。憤懣やるかたのないハイフェッツは、そうした不満をルービンシュタインにぶつけているが、ルービンシュタインは「たとえ神様がヴァイオリンをひかれたとしても、名前の順序は、ルービンシュタイン、神、そしてチェリストの順序だよ。」とたしなめたというから面白い。

今なお発見することの多い歴史的名演である。



L.v.ベートーヴェン:  
ピアノ三重奏曲第7番《大公》変ロ長調 op.97  
アルトゥール・ルービンシュタイン(ピアノ)  
ヤッシャ・ハイフェッツ(ヴァイオリン)  
エマヌエル・フォイアマン(チェロ)  
録音:1941年9月12,13日, RCA Studios, Hollywood  
BVCC-35093

## 第19回「静岡の名手たち」 オーディション 合格者決定!

5/4(日・祝)鍵盤楽器、邦楽部門、  
5/5(月・祝)管楽器、アンサンブル部門

この度、第19回「静岡の名手たち」オーディションが行われ、応募総数74組から8組の方が合格しました。合格者のみなさんは9/13(土)第19回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサートに出演します。あなたも新しい才能が羽ばたく舞台にぜひ!

[鍵盤楽器部門] 小澤実々子、平井陽子【コンチェルト賞】、  
平野有紗、森角敦【ロダン賞】  
(以上ピアノ)

[邦楽部門] 笠原勝代(箏)【ロダン賞】  
[管楽器部門] 青島由佳(フラウト・トラヴェルソ)、  
川口浩央(クラリネット)、  
廣瀬明日香(サクソフォン)

※各部門50音順

第19回「静岡の名手たち」  
オーディション合格者によるコンサート  
9/13(土)18:00開演(17:30開場)  
全自由 ¥1,800 (静岡音楽館倶楽部会員 ¥1,620、22歳以下 ¥1,000)

## 第9期「ピアニストのためのアンサンブル講座」 (ピアノ伴奏法講座) 受講生決定!

2006年度より毎年開催している「ピアノ伴奏法講座」。第8期より講座名を「ピアニストのためのアンサンブル講座」と改め、よりアンサンブルを意識した講座としています。この度、第9期受講生6名が決定しました。7/12(土)～3/15(日)の修了記念コンサートまで、3名の講師の指導のもと、全10回の講座を行います。

■ 荒井薫子、五十嵐沙織、加藤美季、後藤友香理、  
森田ひかり、横路裕子

### 聴講生随時募集中!

日程/2014 ① 7/12(土)、②13(日)、③9/20(土)、④21(日)、  
⑤ 10/18(土)、⑥19(日)、⑦12/6(土)、⑧7(日)、  
2015 ⑨ 3/14(土)、⑩15(日)

内容/〈奇数回〉13:30～19:30 実技レッスン  
〈偶数回〉10:00～19:30 アナリーゼ  
講義～奏者の視点から～②④  
ピアノをめぐる音響を考える⑥⑧  
実技レッスン

①、②はクラリネット、③、④はヴァイオリン、⑤～⑧はトリオ、⑨は両者、  
⑩は修了記念コンサートを開催予定。

会場/静岡音楽館AOI ホール(8階)、及び講堂(7階)  
講師/野平一郎(作曲家、ピアニスト、静岡音楽館AOI芸術監督)  
漆原啓子(ヴァイオリン奏者)、横川晴児(クラリネット奏者)、  
倉田尚彦(株式会社松尾楽器商会 調律師)・⑥⑧講義講師

聴講料/一般: 奇数回 ¥2,000 偶数回 ¥3,000 (第10回を除く)  
22歳以下 ¥1,000  
10回通し券: 一般 ¥20,000、22歳以下 ¥9,000

**Ticket de Smile加盟店は静岡街中に56店舗！ぜひご利用ください。**

※チケット記載の日付(期間)に限り1回ご利用いただけます。  
 ※チケットを提示されたご本人さまのみ有効です(店舗によって異なる場合があります)。



静岡青汁スタンドは、野菜の中でもビタミン・ミネラルが豊富なケールを使った生の青汁専門店です。毎朝しぼっているからとても新鮮。粉末や冷凍のものどちがい、まさに飲む生野菜です。野菜不足の方はぜひどうぞ。

## 静岡青汁スタンド TEL.054-253-8357

http://siz-ajiru.com  
 静岡市葵区両替町1丁目4-5河村第一ビル1F  
 営業時間／月～金8:00～19:00(但し10:00～12:00、15:00～16:00は出前時間のためclose)  
 土・祝12:00～19:00(日曜日定休)  
 呉服町店もどうぞ(静岡市役所裏)

### おすすめ

- 青汁ハーフサイズ(100cc)……………¥155
  - 青汁レギュラーサイズ(200cc)……………¥310
  - 青汁ダブルサイズ(400cc)……………¥620
- ★豆乳、ヨーグルト、りんごジュース入りもあります。



青汁(ハーフサイズ) 1杯試飲サービス

「買う」+「飲む」が楽しめるお店です。現地で買付けたフランス産自然派ワインが250アイテムご購入頂けます。カウンターでは立ち飲みもOK。本格的なおつまみもご用意しています。

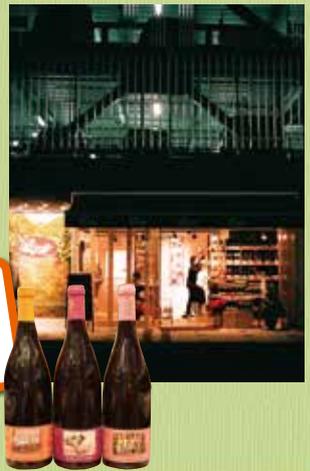
## 自然派ワイン専門店 La Vigne 静岡

TEL.054-205-4181 http://www.tokoseika-group.jp  
 静岡市葵区紺屋町17-2 稲森パーキング本社ビル1F  
 営業時間／月～土10:00～22:00、日・祝12:00～20:00

### おすすめ

- グラスワイン(立ち飲み)¥400
- ドメヌ・スーリエ ラ・ヴィンニユラベル¥1,890
- ドメヌ・ラゲール エクリプス白¥2,052

ワインご購入の場合 100円引  
 静岡市美術館の観覧券をご提示の方はワインご購入の場合8%off



## 静岡県文化奨励賞受賞のお知らせ

この度、AOI・レジデンス・クワルテットが平成26年度 静岡県文化奨励賞を受賞いたしました。文化奨励賞とは、芸術、学術等を通じ、静岡県の文化の振興と向上に寄与する個人又は団体の活動を奨励するため、県内文化関係者もしくは県内学術研究者又はそれらの団体で、現に優れた業績を挙げ、かつ、将来その一層の発展が望まれるものに対して静岡県より授与される賞です。平成7年のAOI開館以来地道に質の高い音楽を提供し続けてきたことが評価されての受賞となりました。これまでの皆さまのご支援にお礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



**音** 楽で世界を旅している様でした。生のオルガン演奏がこんなに迫力のあるものだとは思わず、とても感動しました。知っている曲もあって楽しかったです。(4/6 オルガン¥500コンサート 中川紫音 ご来場者より)

ご来場、まことにありがとうございました。AOIでは今後もオルガン・コンサートを継続して開催したいと考えております。

次回は

**9/6(土) オルガン¥500コンサート 甲斐弦也** [14:00開演(13:30開場)全自由¥500]です。

さらに楽しみたい方へは

**12/13(土) 鈴木雅明 オルガン・リサイタル** [18:00開演(17:30開場)全指定¥4,000(会員¥3,600、22歳以下¥1,000)]

もごさいます。みなさまのご来場をお待ちしています。



### 静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、平成26年度をもって退会をご希望のかたは、平成27年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

### 静岡音楽館倶楽部 法人会員(2014年5月末現在)50音順

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| ●(株)アオイテレテック        | ●(株)タミヤ         |
| ●(株)SBSプロモーション      | ●(株)戸田書店        |
| ●かわした歯科クリニック        | ●(有)丸吉事務機       |
| ●コカ・コーラ イーストジャパン(株) | ●三菱電機(株)静岡製作所   |
| ●(株)サンタモンコーポレーション   | ●(株)メディア・ミックス静岡 |
| ●静岡ターミナルホテル(株)      |                 |

### コンサートシリーズ2014-15

主催 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

特別協賛 静岡信用金庫

協賛 アイワ不動産 HARVEST HOMES

コカ・コーラ イーストジャパン株式会社

ホテルセンチュリー静岡 ANSHINDO

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- \* 価格は税込です。
- \* 都合により内容を変更する場合があります。
- \* お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更は致しかねます。
- \* 場内での飲食、写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。
- \* 携帯電話、アラーム付時計等の使用はご遠慮ください。
- \* 他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- \* 静岡音楽館AOIは、施設の構造上、会場準備が整わない状態(開場時間前)で、お客様を8階ホールへご案内することができないため、通常エレベーターは7階止になっております。開場時間になるまで1階エレベーター前か、7階ロビーでお待ちください(ただし、1階エレベーター前でお待ちいただいたお客様を優先してご案内いたします)。
- \* 静岡音楽館AOIが主催するコンサート(一部を除く)では、未就学児は入場いただけません。



託児サービス(AOIの主催事業に限りませ)  
 要事前予約(1週間前まで)・託児料:1人¥1,000  
 すわん TEL.054-255-5377(9:00～21:00)  
 留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。

### JR静岡駅北口を出てすぐ左



## CONCERT HALL SHIZUOKA 静岡音楽館 AOI

月曜日休館(ただし祝日開館、翌日休館) 9:00～21:30開館  
 〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9

お問合せ

054-251-2200

